

つなぐちゃんベクトル

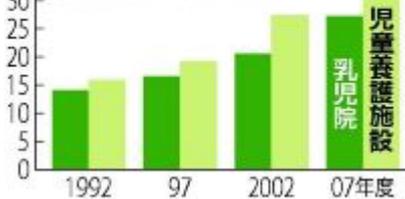
社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 252号 2011.2.3 発行 社会政策研究所

毎日新聞で3回連載された高次脳機能障害の記事は、ぜひお読みください。障害者自立支援法の一部改正法政令で、サービス利用の対象者に組み込まれることになっています。高次脳機能障害の新たな支援メニュー作りが必要です。【kobi】

タイガーマスクが呼び水...児童養護施設、改善へ

読売新聞 2011年2月2日

虐待により施設に新規入所した
子どもの割合
(厚生労働省の資料より)



児童養護施設にランドセルなどを寄付する人が相次ぐ「タイガーマスク現象」。その余波で、これまで社会の関心が薄かった福祉施設で暮らす子どもたちの生活環境にも、改善の動きが出始めた。

「戦後の孤児対策のまま」とされる施設の状況の見直しに、寄付で表現された「善意」は生かされるだろうか。千葉県館山市にある児童養護施設「ひかりの子学園」。30人の子が暮らす学園にも、1月中旬から5件の匿名の寄付が届いた。文房具、ランドセル……。15万円が包まれた封筒には、東京・神田の消印と「伊達直人」の差出人名だけが印字されていた。

「国や県から支給される子どもの生活費はぎりぎりの額で、寄付はありがたい」。そう話す施設長の西網覚雄さんには、戸惑いものぞく。「出所のわからない寄付には躊躇もある。名乗っていただけたら安心して使えるのですが」

厚生労働省によると、昨年末から全国の児童養護施設や児童相談所に届いた寄付は1月中旬ですでに1000件以上。かつてない「寄付ラッシュ」を受け、全国児童養護施設協議会（全養協、東京）が1月13日にホームページで「お礼とお願い」を掲載すると、寄付の相談が連日のように続いたという。

だが、施設関係者の多くは、善意を歓迎する気持ちとともに、複雑な思いを抱いている。子どもたちの生活環境には課題が山積していて、抜本的な改善が何より必要だからだ。

「今、施設で暮らす子どもの半数以上が虐待体験のある子どもたちだ。制度が作られた昭和20年代には『施設では衣食住が足りればいい』という考えだったが、当時のままの職員配置では、十分な育ちの支えができなくなっている」と、全養協副会長の土田秀行さんはいう。

施設の運営指針を定めている児童福祉施設最低基準は、今も「入浴は週2回以上」「1人当たり居住面積は3・3平方メートル（幼児～高校生）」ときわめて低水準。幼稚園通園費や中学生の塾代が支給されるようになったのは昨年度からだ（いずれも実費）。過去10年で改善された高齢者や障害者の施設に比べて、立ち遅れているのは明らかだ。

「ひかりの子学園」では、30年前の発足時から後援会を作り、会員費やバザーの収益金など独自に集めた年200万円を、子どもの生活費（月4万7430円）の不足分に充ててきた。「継続して施設を支えてくれる人たちのおかげで、小学生はキャンプ、中学・高

校生は登山へ、冬ならスキーへ連れていくことができる。つらい思い出もしてきた子どもたちだからこそ、楽しい思い出をいっぱい作ってあげることが大事」と西網さんは話している。

詐欺、5年で2倍超 生活保護、年金など標的 生活保護受給者や高齢者向けに賃貸住宅を斡旋するチラシ

産経新聞 2011年2月2日(水)



全国警察の知能犯罪を担当する捜査2課が平成22年に摘発した生活保護などの社会保障制度を狙った詐欺事件は80件で、5年前の2倍以上になったことが1日、警察庁のまとめで分かった。被害総額は立件分だけで約2億8千万円に上る。警察の摘発をきっかけに廃止された国の融資制度もあり、警察と行政側の連携による不正防止策も課題になっている。

まとめでは、最も摘発件数が多かったのは生活保護の27件。18年は5件だったが、19～21年は17～20件と増加。22年は大阪などで「貧困ビジネス」の摘発が相次いだこともあり、5年前の5倍以上の摘発件数になった。

2番目に多かったのは年金の15件で、前年比2・5倍。所在が確認できない100歳以上の高齢者が社会問題化したことを受け、子供や孫の年金詐取が相次いで発覚したことが大幅増の背景になったという。

続いて、健康保険と失業者を対象に住宅の入居費用を融資する「就職安定資金融資制度」の詐取がそれぞれ7件あった。同制度は20年末に創設されたが、大分県警が昨年、申請者と事業者、不動産業者が結託して約2千万円を詐取したとして暴力団幹部ら計24人を逮捕するなど不正の摘発が続いた。厚生労働省はこれを受け、昨年9月に制度を廃止した。このほかは雇用保険が5件、労災保険と介護保険がそれぞれ4件だった。また、捜査2課だけでなく、暴力団対策部門や右翼団体などを取り締まる警備部門による摘発も相次いでおり、全体の摘発数はさらに多いとみられる。

警察庁は「社会保障をターゲットにした詐欺はまだまだ潜在している」と指摘。大阪などで警察と行政が連携する動きもあるが、「行政側の対応にはばらつきがあり、なかなか摘発に結びつかない。セーフティネットを守るために今後は連携が重要になる」としている。

県：市町村医療費補助率、来年度から45%に / 岐阜 毎日新聞 2011年2月1日

県が市町村に対して単独で行っている医療費補助について、補助率を現行の40%から11年度は45%に引き上げることが分かった。県は行財政改革「アクションプラン」の一環で割合を一度引き下げていたが、市町村から見直しを求める声が相次いでいた。

県地域福祉国保課によると、各市町村は、県内の重度心身障害者や乳幼児、母子・父子家庭の親子の医療機関での窓口負担分を補助している。その市町村負担分の50%を県が補助していたが、10～12年度は補助率を40%に引き下げると決定していた。

10年度は、40%への引き下げで県予算の支出を約15億円削減した。11年度は45%に引き上げることで、削減額は約7億円になる見通し。【岡大介】

もがく心：高次脳機能障害の若者たち / 上 居場所失い「死にたい」 / 佐賀

毎日新聞 2011年1月31日

食卓の上に置いてある紙の切れ端に、乱暴に書きつづってある。「死にたい」。佐賀市の野本英美さん(42)の長女(20)の走り書き。英美さんは毎日のようにその言葉を見

つけ、泣きそうになる。「どうしたら救ってあげられるのだろう……」

07年12月20日。長女の高校の終業式前夜だった。夕食を共にしようと英美さんがハンバーグを温めていた時、電話が鳴った。バイトの帰り道に長女が事故に遭ったという知らせだった。靴下も履かないまま、搬送先の病院に向かった。

意識不明の重体だった。「手の施しようがない」と診断されたが、未明に奇跡的に回復。年明けに一般病棟に移ることができた。

意識がはっきりするに従い、様子に変調した。「お化けが出た」「私を殺しに来る」。幻覚・幻聴に苦しんで奇声を上げたり、夜中に突然、笑い出したりした。「高次脳機能障害」と判明した。

小さい頃から2人の弟の世話をよくみる、優しい性格だった。新体操をしていて足も速く、運動神経も良かった。歌うのが好きで、将来は子どもの面倒を見る仕事を目指していた。

そんな長女を「赤ん坊から育てなおす、という感覚だった」と英美さん。風呂の入り方、はしの握り方を一から教えた。

リハビリを重ねたことで春には退院、高校に復学することができた。学校側の理解もあり、短大に推薦入学。しかし、周囲になじめず1週間で休学、半年後には退学した。

家庭でも不安定な状態が続いた。部屋に引きこもり、昼夜逆転の生活を送った。短大時代、学校に行くよう注意されたことに腹を立て、雨の中、家から飛び出し「川に飛び込む」と言ったり、夕食のおかずを巡る弟との口論から刃物を持ち出し、警察が駆け付ける事態になったこともある。ささいなことで感情を爆発させていた。

家族会「ぶらむ佐賀」のメンバーを通じ、障害者の作業所に通ったこともある。だが「私は治っている。なんでただ働きみたいなことをしないといけないのか」と主張し、1カ月ほどで辞めた。

ドラッグストアのアルバイトなどの採用試験にも挑戦したが、面接が通らない。

Q あなたのチャームポイントを教えてください。

A チャームポイントって何ですか。

こんなやりとりもあった。

体の障害はほとんど残っておらず、容姿も「普通の20歳」(英美さん)。障害を伝えても理解されにくい。

「退屈だ、暇だ」。たびたびつぶやく長女の姿は、英美さんの目には、もがいているように映る。障害を理解し、長女に自覚させ、受け入れてくれる場がほしい。英美さんはそれだけを望んでいる。

外面からは判別しにくく、自覚がない当事者も多い高次脳機能障害は周囲から理解されにくい。この障害のある若者たちが、家庭、学校、職場で、思うようにならない自身にもがきながら生きる姿を通じ、当事者の苦悩、家族の重圧、必要な支援のあり方について考える。【蒔田備憲】

=====

ことば

高次脳機能障害

交通事故や水難事故などで後天的に脳にダメージを受け、後遺症として残る障害。記憶障害や注意力低下などの特徴があるが、一人一人症状は異なる。外見では障害があることが分からない人も多い。全国の詳細な実態調査は行われていないが、福岡県内の病院で行った調査から、全国に約6万8000人いると推計されている。

もがく心：高次脳機能障害の若者たち / 中 続くトラブル、目離せず / 佐賀

毎日新聞 2011年2月1日

昨年秋、吉野ヶ里町の土木業、平井顕俊さん(48)が町内の車用品店に行ったときの

ことだ。買い物中、隣の喫茶店の店員が「不審者が来た。助けて」と飛び込んできた。平井さんが喫茶店に駆け付けると、平井さんの車で待っていたはずの長男斐登（あやと）さん（19）が店内で叫び声を上げ、警察が呼ばれる事態になった。数日後、斐登さんはその出来事自体を忘れていた。

斐登さんは5歳から空手を始め、高校は熊本県内の強豪校に進学した。07年7月、部活の練習中、相手の突きを受けて転倒。翌日の放課後、学校内で倒れた。急性硬膜下血腫で、意識不明の重体になった。

家族が再会した時は、人工呼吸器を付け、瞳孔が開いていた。命を失う覚悟もしたが、意識は回復した。約1カ月後に佐賀県内の病院に転院し、翌年4月に退院したが、体に重い障害が残り、寝たきりの状態だった。

斐登さんは養護学校に入学し、リハビリを重ねて身体機能を取り戻し、自力歩行も可能になった。一方でトラブルが頻発するようになる。

「空手をやっているから、暴力は絶対に振るわない」。そう宣言していた斐登さんが、家族に拳を向けたり、髪の毛を引っ張ったりした。歩けるようになってからは、すぐ家の外に出ようとする。母和美さん（43）はトイレに入るのをためらうほど目を離せなくなった。

顕俊さんによると、現在の知的レベルは「4～5歳程度」。日常会話や足し算はできるが、平仮名の読み書きはできない。日付を一日に何回も尋ねたり、人の顔や名前を覚えられない。内気で人見知りする性格だったが、誰にでも声を掛けるようになった。

「母さん、もう疲れたよ」。喫茶店でのトラブル後、和美さんは斐登さんに語り掛けた。「毎日人に謝って、みんな我慢してる。障害者も健常者もしちゃいけないことは同じなんだよ」

このままでは斐登さんを外に出せなくなる、という思いから、言葉にした。普段は落着きのない斐登さんはうつむき、じっと座って聞いていた。「ごめんなさい」。斐登さんは泣き声で言葉を絞り出していた。

斐登さんは今春、養護学校を卒業する。「斐登がしたいことは何だろう。それを見つける場を、斐登に与えてあげてほしい」。斐登さんを見つめながら、両親は思いを込めるが、行く先は決まっていない。【蒔田備憲】

もがく心：高次脳機能障害の若者たち / 下 願いはただ「人並みに」 / 佐賀

毎日新聞 2011年2月2日

佐賀市内の農家の作業部屋。収穫したネギの香りが満ちている中、男性（20）は手元をじっと見て、黙々と根をきれいに洗う。隣に座る母（52）は「こうして穏やかなままなら、普通の若い男の子なんだけど……」と複雑な表情で見守る。

約10年前、当時小学5年生だった男性は、近所の道路を横断中、車にはねられた。低体温治療を施され、意識を回復したのは約1カ月後。体に大きな障害は残らず、半年後に退院した。養護学校への転校を勧められたが、通っていた小学校に復学させた。

家族が男性の「変化」に気付いたのは復学後だった。人の名前や顔をすぐ忘れてたり、話した内容を思い出せない。嫌がる友人にちょっかいを出すことも頻繁になった。学校の成績も落ち、わがままが目立つようになった。「せからしか子になったな」とは思ったが、障害の認識はほとんどなかった。

中学に進学すると、ささいなことで感情を爆発させてしまうことが続いた。「無視された」という思い込みから同級生を殴ったり、通っていた学習塾で知人と口論になり、カッターを持ち出したこともあった。このトラブルをきっかけに肥前精神医療センター（吉野ケ里町）に通院、高次脳機能障害と診断された。

県内の農業高校に入学したが、友人との衝突はやまず、学校からは「障害者のための学校ではないから」と、転校を促された。結局、2年生進級前に退学。「人生の階段を踏み外した」。母はそう感じたという。

現在、男性は家業の農作業を手伝っている。短気でかんしゃく持ちだった性格は落ち着き、同年代の農家との交流会にも参加するようになった。半年前から、事故後離れていた柔道も再開。昇段試験に挑戦する姿は生き生きして映る。

仕事では、手順をすぐに忘れ、自分から進んで何かをすることも少ないが、早起きして農作業に取り組むなど、懸命な姿勢も見せ始めている。

それでも、不安は消えない。昨年夏には「男性が物損事故を起こした時、示談金として一時的に金を貸した」という「友人」が、7、8万円の返済を求めてきた。男性は「借りたかな」とあいまいな記憶。結局金を渡したが、後日、同じ「友人」が再び金を求めてきたため、母は警察に届け出た。

だまされている、と説明した母に放った男性の言葉は「おれの友だちに何てこと言うと？」だった。

親の手が届かないところで、どう生きていくのだろう。将来への不安を持ちながら、母はつぶやく。「仕事をして、家庭を持って……。ただそれなりに、人並みに、暮らしてほしい。願うのはそれだけです」【蒔田備憲】

社説：主婦の年金 この不公平は許されない 朝日新聞 2011年2月2日

サラリーマンの妻を主な対象にした年金の「3号被保険者」の扱いで、正直者が損をする状況が生まれている。行政がつくったこの不公平を放置することはできない。

3号は自分で保険料を払わなくても年金に加入できる。しかし、夫が脱サラしたり、本人の収入が多くなって扶養を外れたりすれば、妻は届け出をして3号から1号被保険者になり、保険料を払うことが法律で義務づけられている。夫がリストラで職を失った場合も同様だ。

ところが、本人が届け出をしなかったため、3号のままの記録になっている人が数十万人から100万人もいることが分かった。

そこで厚生労働省は今年1月から、こうした人たちに最近2年分の保険料を請求するが、それ以前は、夫がサラリーマンをやめるなど3号に該当しない期間でも3号と認めることにした。

届け出をして1号に切り替え、保険料を納めてきた人に比べて不公平だ。

従来は届け漏れが見つかれば「未納」とされ、将来受け取る年金を減額されてきた。

「従来の扱いだと、低年金や無年金になる人がたくさん出る」「苦情が殺到し、対応しきれない」と、厚労省は「救済」の必要を強調する。

だが、すでに記録を訂正して、低年金や無年金になった人は救済されない。日本年金機構の現場職員からは、「今後も切り替えない方が得だという人が出てきかねない」といった心配の声が出ている。

より公平な方法も、現場の職員や社会保険労務士から提案されている。保険料を払えるだけ払ってもらい、払えない分は加入期間としては認めるが、年金の受給額には反映させない、というやり方だ。これなら、公平感が保たれ、無年金の人を増やさずに済む。

今回の処理方法が議論され、固まったのは長妻昭厚労相時代である。「ミスター年金」と呼ばれた長妻さんにふさわしい判断とは思えない。

幸い、年金業務については、総務省に外部の有識者を集めた監視委員会が設置されている。厚労省とは別の立場から、くわしい経緯を調べ、点検して是正を促してもらいたい。

今からでも遅くない。このような不公平な措置は、やめるべきだ。

この問題の背景には、本人が届け出ない限り記録が変更されないという制度上の無理がある。さらに掘り下げれば、「保険料を払わなくても年金が受け取れる」という、3号制度が本来持つおかしさに行き当たる。

政府は社会保障と税の一体改革の議論を始めているが、3号見直しは必須だ。サラリーマン家庭の専業主婦にも、何らかの方法で保険料負担を求める改正を検討すべきだろう。

社説：民主党はまず重点公約の見直しを急げ 日経新聞 2011年2月2日

衆院予算委員会で自民党議員が質問に立ち、与野党の本格論戦が始まった。財政を立て直す必要性では一致したが、自民党は政策協議の前提として来年度予算案の修正を求めた。民主党はまず自らの責任で重点公約の見直しを急ぐべきだ。

自民党の石原伸晃幹事長は、小沢一郎民主党元代表が政治資金規正法違反罪で強制起訴されたことに触れ、「民主党の責任感、自浄力の無さを端的に示している。証人喚問へ菅直人首相がリーダーシップを発揮してはどうか」と迫った。

首相は「国会での説明は必要だ。与野党で実現するよう努力すべきだ」と述べるにとどめた。小沢元代表の国会招致は与野党対立の火種になっている。国会での説明責任に背を向ける小沢元代表をかばう対応は、もはや許されない。

質疑では米格付け会社による日本国債格下げなどを踏まえ、財政再建をめぐる論争が目立った。石原氏は来年度予算案について「経済波及効果の薄いバラマキ政策をオンパレードしてもデフレからの回復には全く寄与しない。その最たるものが子ども手当だ」と指摘した。

首相は「子ども手当は少子高齢化に対応する重要政策で経済的にもある程度の効果がある」と反論し、予算修正に慎重な考えを示した。

続いて質問した自民党の石破茂政調会長は、民主党が掲げる社会保障と税の一体改革について「協議を呼びかけるには民主党の議論をまとめるのが当然だ」と強調した。

政府・与党は6月に社会保障と税の一体改革案をまとめる方針だ。野党と協議するため、与党案のとりまとめを急ぐべきではないか。

自民党は民主党が2009年の衆院選マニフェスト（政権公約）で掲げた重点政策の財源16.8兆円のうち、現時点で3兆円強しか確保のメドが立っていない点も突いた。その指摘は当たっている。

首相は「衆院議員の任期の折り返し地点が9月に来る。その段階で検証する」と述べたが、財源からも重点公約を持続するのは無理だ。

自民党は子ども手当、高速道路無料化、高校の実質無償化、農業の戸別所得補償制度の頭文字をとり「4K」としてやり玉にあげている。財源の規模と政策効果について改めて検証し、対象の絞り込みや制度の見直しを進めるべきだ。

与野党の主要政策をめぐる対立軸はなお不明確な部分も多い。環太平洋経済連携協定（TPP）への参加や農業改革などに関して、論戦を通じ議論を深めていく必要がある。

社説：衆院予算委質疑 「熟議」の助走にはなった 毎日新聞 2011年2月2日

やっと、論戦に弾みがついてきた。衆院予算委員会は1日、野党・自民党による質問が行われた。

石原伸晃幹事長や石破茂政調会長が揚げ足取りではなく、菅内閣の基本姿勢をただした点は評価できる。国会を空転させ、政治不在を印象づけるような愚を与野党は演じてはならない。予算案の内容や税制・社会保障のあり方について、主張の説得力を大いに競うべきである。

質疑でまず、問われたのは小沢一郎・民主党元代表が政治資金規正法違反で強制起訴された事態に伴う、菅直人首相の対応だ。

石原、石破両氏は小沢元代表をめぐる「政治とカネ」の問題に終止符を打ち、国政の停滞を回避すべきだ、との観点から証人喚問実現に首相の指導力発揮を求めた。首相は小沢元代表の国会での説明は必要としながらも、自らが党内調整に乗り出すことには慎重な言い回しに終始した。

年頭の記者会見で「不条理をただす政治」を掲げ、小沢元代表が起訴された場合の出処

進退に言及した首相にしては、何とも踏み込み不足だ。国会招致という最低限のけじめに手をこまねいては「熟議の国会」実現の決意が問われよう。

予算案では焦点の「子ども手当」の是非が論じられた。自民党側が「バラマキ政策」として中止を求めたのに対し、首相は制度について少子化対策としての意義を強調、「バラマキとは思わない」と反論した。

やはり自民が追及する与謝野馨経済財政担当相の起用について首相は税制・社会保障改革に向けた「大義」を強調した。また、自民側が求めた議員辞職を与謝野氏は拒否した。与謝野氏入閣の是非より、政策論争に力点を移すべきではないか。

その意味で、税制・社会保障改革について政府・民主党が基本案を持ち合わせず論戦にのぞむ不十分さがむしろ浮き彫りになった。民主党が09年衆院選で示した所得比例年金に最低保障年金を組み合わせた改革案について首相らは「(議論の)ベース」と表現したが、位置づけはあいまいだ。

政府案のイメージすらつかめないようでは、論戦はかみ合わない。自民党は「与野党協議を呼びかけるなら民主党案をまとめるべきだ」と主張している。首相は野党との協議が実現しなくても、6月に政府の一体改革案をまとめる意向を示した。だが、本気で協議の実現を目指すのであれば、やはり民主党内の調整を急がねばなるまい。

論戦の場として、今後は党首討論の活用も欠かせない。特に谷垣禎一自民党総裁に対しては、衆院解散要求一辺倒ではない、深みある議論を期待する。

特集ワイド：

税と社会保障、どうして一体改革？

毎日新聞 2011年2月2日

「選挙権のない赤ちゃんに借金を押しつけているのが現在の日本の姿です」と語る一橋大の国枝繁樹准教授(左)と、「国民は必要ならば痛みを受け入れる雰囲気になりつつある。足りないのは国民を納得させる政治家の言葉です」という東大の井堀利宏教授

菅直人首相が内閣の最重要課題に掲げる「税と社会保障の一体改革」。赤字大国・日本の国民として知っていて当たり前！ だが、やっぱり難しい。知ったかぶりでは済まされない税の話を、専門用語抜きで一から学ぶ。【鈴木梢】



年金・医療費、保険料で賄えず 国の借金で穴埋め 子孫へのツケ、世界最悪

国枝繁樹・一橋大准教授「これじゃ財政的児童虐待」

井堀利宏・東大教授「消費税は財源にふさわしい」

菅首相の施政方針演説などに対する代表質問が始まった1月26日。東大・赤門をくぐり、財政論を専攻する井堀利宏教授の研究室を訪ねた。代表質問では、自民党の谷垣禎一総裁が一体改革と矛盾する民主党マニフェストの撤回を求め、「有権者にわびたうえで信を問い直すべきだ」と力説した。

研究室では、井堀教授が嘆いていた。「菅さん、反省してないもの。仕分けでムダをはぶくと言っても、やってみたら1兆円にも満たなかった。政権交代前の発言とその後にやってきたことを比べ、真摯(しんし)に反省しなければね」

具体的な制度改革の基本方針は6月までに示されるが、財源確保は消費税率引き上げが中心となる。一方、法人税は11年度から実効税率が5%引き下げられる。世界的な引き

下げ競争で企業の海外流出を防ぐためだ。井堀教授は「少子高齢化で勤労世代がどんどん減ってしまうから、働いている人から取る所得税に頼るのも、もう無理なんです」と説明する。

急速な少子高齢化で社会保障費が拡大するのは分かるが、そもそもなぜ税との「一体改革」が必要なのか？ 井堀教授は「本来なら保険料で年金や医療が賄われるはずですが、それでは足りないため税金を投入している。投入とはいっても財源がないから財政赤字を出して将来に先送りしており、年金制度を改革する場合は両方一緒に考えなければならぬ」と説明する。

「かんしゅしょう シャツ金をしないように、かんがえてください」

毎日小学生新聞が子どもたちに募集した菅首相への年賀状。借金を膨らませて将来世代にツケをまわす政府への不安が幼い文字で寄せられた。日本の借金（債務残高）は過去最高の900兆円に迫る。

政府が05年度に発表した世代会計によると、将来世代の負担から受益を引くと1世帯当たり4585万円に上る。この窮状を「財政的児童虐待」と強調するのは、一橋大の国枝繁樹准教授（財政学）。「これから誕生するカップルに赤ちゃんがオギャーと生まれたら、いきなり巨額の借金を負わされる計算になる。将来世代の負担は世界的にも断トツに高い。日本人は子どもにこれほど冷たいとは思えないんですが、実態なんです。最悪ですよ」という。

国が借金ばかりするのは、国民の負担が少ないからか？

国民所得に占める税の負担割合（税の負担率）は、10年度見込みで21・5%、社会保障の負担率は17・5%。特に税の負担率は主要国でも最低水準という（図1）。国枝准教授は「スウェーデンのように大きい政府か、アメリカのように比較的小さい政府かというところ、日本は小さい政府だから国民負担率が低いというわけではなく、将来世代に負担を押し付けているので、現代の世代は少なめの負担で済んでいるだけなんです。そのため、日本は「中福祉・低負担」と指摘されるが、一定のサービスをそれに見合わない低い負担で続けられるわけではない。

一体改革で不可避とされるのが消費税率の引き上げ。反発は強いが、井堀教授は「高齢者を含めてみんなが負担するので、少子高齢化の影響が少ない。安定的なため、毎年一定額が必要な社会保障の財源にふさわしい」とメリットを挙げる。

社会保障が充実する欧州の付加価値税（消費税）はスウェーデンで25%、イタリアで20%。一方、日本は所得税と資産税が諸外国と比べて重い。国枝准教授はバランスのとれた税制が望ましいことを、カラオケを例に説明する。

「あなたの職場でカラオケに行ったとして、歌が好きな鈴木さんはマイクを離さない。その時、支払いをどうするか。やっぱり給与の高い人に多く払ってもらおうというのが所得税の考え方。でも、ほとんど歌っていない部長は納得できない。曲数に基づいて払った方がむしろ公平という考え方が消費税です」

消費税は低所得者ほど負担感が増すため、国際的には生活必需品に対して税を軽減したり非課税にする国もある。だが、必需品とぜいたく品の線引きは難しい。

国枝准教授によると、ドイツではハンバーガーのテイクアウトは軽減税率だが店内で食べればレストランで食事するのと同じ標準税率が適用される。イギリスでは、ケーキとチョコで包まれたビスケットは税率が異なるため、ある菓子がどちらと見なされるかで裁判になった。このため、税率軽減よりも一律に集めた財源から低所得者に手厚く給付する方が効率的で、税の再分配にも有効という意見が根強い。

09年度の経済財政白書によると、日本の税による再分配効果は国際的にも最低レベル（図2）。国枝准教授は「経済格差が広がってきたのに税の累進度を緩めてきた問題はある。高額所得者への課税強化は昨年未決だったが、低所得者への再分配機能の強化は税制改革

の課題として残る」という。

井堀教授は言う。「給付に関しては、子ども手当や農家の戸別補償のように広く薄くばらまくと政策効果が出ない。子育て支援なら本当に必要なところに保育所を作ればいいし、政策のメリハリをきちんと付けるべきです」。税は「広く薄く」、給付は「選択と集中」が肝要という。聞けば聞くほど民主党の施策は逆行しているように思える。

さらに問題は、一体改革で社会保障の財源確保のめどを付けたとしても、莫大（ばくだい）な借金返済については手つかずということだ。日本の財政赤字はバブルが崩壊した90年代に特に膨らみ、97年には消費税を5%に上げたが、借金総額が国内総生産（GDP）を上回った。00年以降も急拡大し、現在は借金がGDP比約200%となり、財政破綻したギリシャやアイルランドよりはるかに高い。

井堀教授は「国が借金しても差し当たって国民は痛みを感じない。与野党ともに増税と言えば選挙に負けるから、勝つためにはバラマキをする。景気の悪い時は公共事業や減税で大盤振る舞いし、景気回復してツケを解消しようとしたら、また景気が悪化する、その繰り返しなんです」。

国民も、「そういうことに疎いので」では済まされない。

ほっとするニュース：障害者施設が“わさおグッズ”で応援

毎日新聞 2011年2月2日

映画化も応援する夢工房月見野の「わさおぬいぐるみ」=つがる市森田町で2011年2月1日午後4時12分、矢澤秀範撮影

知的障害者が働く多機能型事業所「夢工房月見野」（青森県つがる市森田町）が、同県鱒ヶ沢町の人気秋田犬「わさお」のぬいぐるみを商品化し、1日発売した。09年6月から製造販売している「わさおのお店のイカかりんとう」に続く“わさおグッズ”で、26日から県内で先行公開される映画「わさお」の応援も担う。



ぬいぐるみは大（高さ25センチ）とストラップ付き小（同10センチ）の2種類。製造は東京都の玩具メーカーに委託し、夢工房で利用者が袋に詰め、バーコードを張って仕上げる。かりんとうの製造作業が苦手な利用者も容易にできるため、作業の幅が広がったという。

夢工房を運営する健誠会の山崎徹理事は「映画の宣伝になるし、利用者の仕事も増えて工賃アップにつながる」と期待を寄せる。

ぬいぐるみは、大3000円、小1500円（税込み）。青森市の生協や五所川原市の吉幾三コレクションミュージアム、つがる市の道の駅もりたアーストップなどで販売する。

夢工房（電話0173・26・2117）【矢澤秀範】

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行